



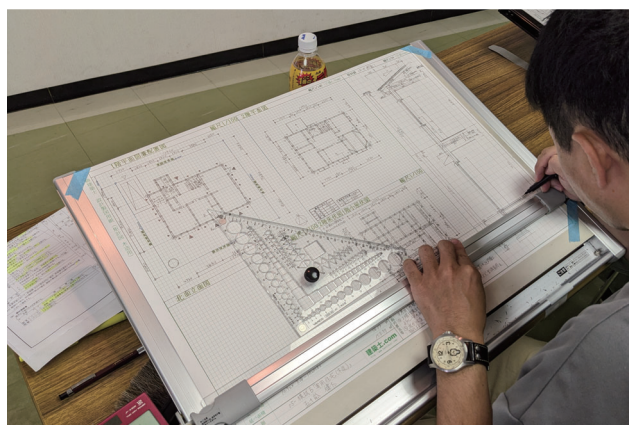
報告 加古川支部製図講習会「担当者 20年の思い」

令和5年6月14日～9月8日

加古川支部（設計製図対策部）



授業風景



●毎年開催される「2級製図講習会」本年度の講習模様と色んな思いを綴って行きたいと思う。

本年度講習模様

日付も変わる真夜中、講習会場には受講生達の鉛筆を走らせる音のみが聞こえる。

8月下旬の様子だ。

本年も複数人の申込みがあった。
当たり前だが生徒の経歴も様々。
受験産業経験者、独学者、当講習会 OB 等。

初登校時（当講習会初参加者）には昨年度作図した
図面を持参させる。
それを確認する事でどの程度描けるのか？理解度は？
どの参考書で学習したか大凡解るからだ。

そして生徒各々に合わせた指導方針を立てる。
今年の新入生は特別な事をしなくともついて来れると
判断した。

例年、8月初旬に開催する模試を目指すカリキュラムを
組んでいるが、今年は7月9日（日）に実力試しの模試
を行った。

第一回模試を経て、中間模試に向け講習を開始した。
※尚、当講習会は毎回宿題が出され、
それが次回講習の予習となる。

オリジナルの課題（例年15題 本年は24題 模試除く）

各図面種類毎のオリジナル練習シート等
毎年参加の生徒は量の多さに驚いています。

カリキュラムが進んでいく中、
昨年9月からコツコツ指導してきた一人の生徒が厳しい
状況であった。

当初、鉛筆がどうしても動かない、思うように描けない。
諦めない限りサポートし続ける。
その逆風の中で少しづつ上を向かせる。

これは私が感じている図面を教える醍醐味だ。

状況を見て時には手を止めさせ下世話な話
（実はコレがメインのような気がする）や趣味の話で
リラックスさせる。

やらされたと思う思いを感じさせずに、その日の
目標となるところ迄描かせて理解させる。

同じ失敗を繰り返しても決して非難しない。
ある時は損と得に置き換えて説明したりする。

彼の趣味は楽器演奏、ヴァイオリンのソリストだ。
音楽の理屈を混ぜて説明した。「あ〜なるほど」となった。

2024 January No.478 番外編

- ・加古川支部製図講習会「担当者 20年の思い」
- ・番外編では紙面に載せきれなかった内容を個別に掲載致します。

メール配信と名簿のご案内

「集 tsudo」誌面に掲載できない情報などを「兵庫県建築士会メールニュース」として配信しています。受信希望の方はホームページからメール配信登録をしてください。またホームページの名簿への掲載を希望される方は会員建築士名簿のページからお手続きください。



●加古川支部製図講習会「担当者 20年の思い」 続き

エスキースにも苦戦していたが、若手講師3名のアドバイスや添削で「あ〜コツがわかりましたわ」となった。

そして彼（生徒）は、本試験前の直前の模試&追い込み日程では、3時間弱で一式図を作図出来るまでになりました。（生徒本人が描ける事に一番驚いていました）

そして本試験当日、会場前で最後の授業、見送り、後日本試験のエスキースの添削返却で150時間を超える本年度の講習は終了となった。

この長期講習は20年前のこの一言から始まりました。

『図面の書き方わからん人、連絡して来てください』

当時新入会員だった私は青年部が開催した模試に裏方として解答例を書いた。

士会に入ってから初仕事だ。

そして模試の答案回収時、その出来に愕然とした。それが先述の一言となった。カンペキなフライングだった。

その呼びかけに答えてくれた人がいた。たった一人。

人に製図を教えたことなどないが、その一人の為にだけ一生懸命になった。

大袈裟かもしれないが、生まれて初めて無我夢中になれた。

自身の置かれている立場を勘違いし、情けない思いをし、数多の失敗を重ね、それでも続けてこれたのは、あの時の気持ちが忘れることができなかつたからだと思う。

"居場所"

この事業（製図講習会）は楽しい居場所であり、集える場所であり、つながれる場所であり、成長できる場所であり、色んな意味を持っている場所です。

楽しい居場所……ここには皆と一緒に笑い合える、照れくさいけど心が喜ぶのを感じれる場所。

物質的な豊かさや体外的な名誉等がくだらないと思える様に……。

この居場所（講習会）が在ることで誰かが元気づけられ喜んでくれればこんなに嬉しいことはありません。

繋がれる場所。

直接指導した生徒、時折連絡をして来てくれます。

近況報告や仕事の相談など様々です。

また、士会のHP・私の拙いブログ等から当講習会を知り全国から連絡をいただきます。

連絡（相談）内容は全て製図のSOSです。

独学者、大手受験産業通学者等、どこにも相談できず最後に直電してこられます。

通信指導的な事もしますし、遠くは東京からこちら迄学びに来た生徒もいました。

そんな彼等からも時折我々を気遣ってくれる連絡を頂きます。

知らない方と縁が繋がっていける場所ですね。

成長できる場所。

大勢の生徒（人々）と接する中で自身のモノの見方を変え、その度に新しい発見があります。

其れを成長と云うのかもしれませんが。

皆と一緒に過ごす中で、新たな活動のヒントを発見出来る事もこの場所の善き所です。

最後になりましたが……

当講習会は産声をあげて20年経ちました。

又、昨年は本部70周年記念式典に於いて事業表彰して頂きました。

決して時流に沿った事業ではありませんが、20年の長きにわたり活動できた事を嬉しく思います。

大勢の人（士会の仲間、直接指導した教え子、全国にいる教え子）に恵まれた20年でした。

この建築士会に私の居場所があった事を感謝致します。

そしてこれからも、大勢の方の色んな場所であり続けることができる様に発展させていきたいと思えます。

ありがとうございました。



文：松本有司（加古川支部） 写真：阪口晴彦（加古川支部）

2024 January No.478 番外編

- ・加古川支部製図講習会「担当者 20年の思い」
- ・番外編では紙面に載せきれなかった内容を個別に掲載致します。